

施設案について

2021.2.5
令和2年度第4回 全世代・全員活躍まちづくりセンター整備検討委員会

■全体

- 屋外及び半屋外空間を取り入れた賑わいを作る設計とする
- 延べ床面積は約2,000m²
- 既存樹木を活かした施設配置とする
- 盛土等により水害に配慮

■ホール

- 定員は300名程度を想定
- 可動音響壁でホール①（定員120名程度）とホール②に分割出来るフレキシブルな構造
- ホール①には常設の舞台と固定席を設置
- コーラスや学校の吹奏楽の発表等での利用を念頭に音響・照明に配慮
- 文化祭等大人数での利用の際には、300名を超える人が観覧出来る様、構造上の工夫を行う。

■諸室

- 旧中央公民館と同規模の調理実習室、和室
- 和室は、お茶の教室が出来るものを最低1室
- 絵画や陶芸などの創作活動が可能な部屋
- サークル活動、企業の会議・打合せ等、多目的に使える会議室を複数室
- 楽器の練習等のために、防音設備の整った部屋
- 子育て支援や療育の子どもの遊び場として使える部屋

■共用スペース

- 行政情報・産業情報・地域活動情報、イベント情報等の各種情報を発信するコーナーを配置する。
- 施設の案内や予約ができる窓口を配置する。
- コンセントや個室空間等、必要な設備を備えたコワーキングコーナーを確保し、町内外の方の働く場（打合せの場）として提供

■カフェスペース

- 共有スペース内に、自由に利用できる営業許可が取れる程度のキッチンを設置し、時間帯や期間で住民や民間事業者でも使用できるコーナーを確保する。
- 広場でのイベント時の利用も想定し、屋外へのアクセスに配慮する

■埋蔵文化財スペース

- 文化財を展示するスペースを設置する

■広場スペース

- 催しが開催できるイベントスペースを整備する。
- 子どもから高齢者まで地域住民が日常的に利用できるオープンスペースとして整備する。
- 半屋外区間および屋内空間と連携した使い方を想定する
- 利便性、安全面を踏まえて駐車場と広場のより良い配置関係を提案する。
- 芝生や植栽など憩いの場を意識した計画とする。

■施設配置等

- 旧中央公民館の跡地に建設
- 中庭を活用すると共に中庭と建物の間には半屋外空間を設ける
- 旧中央公民館前の楠はそのまま保存する。
- 既存の庁舎との全体のデザインバランスに配慮する。

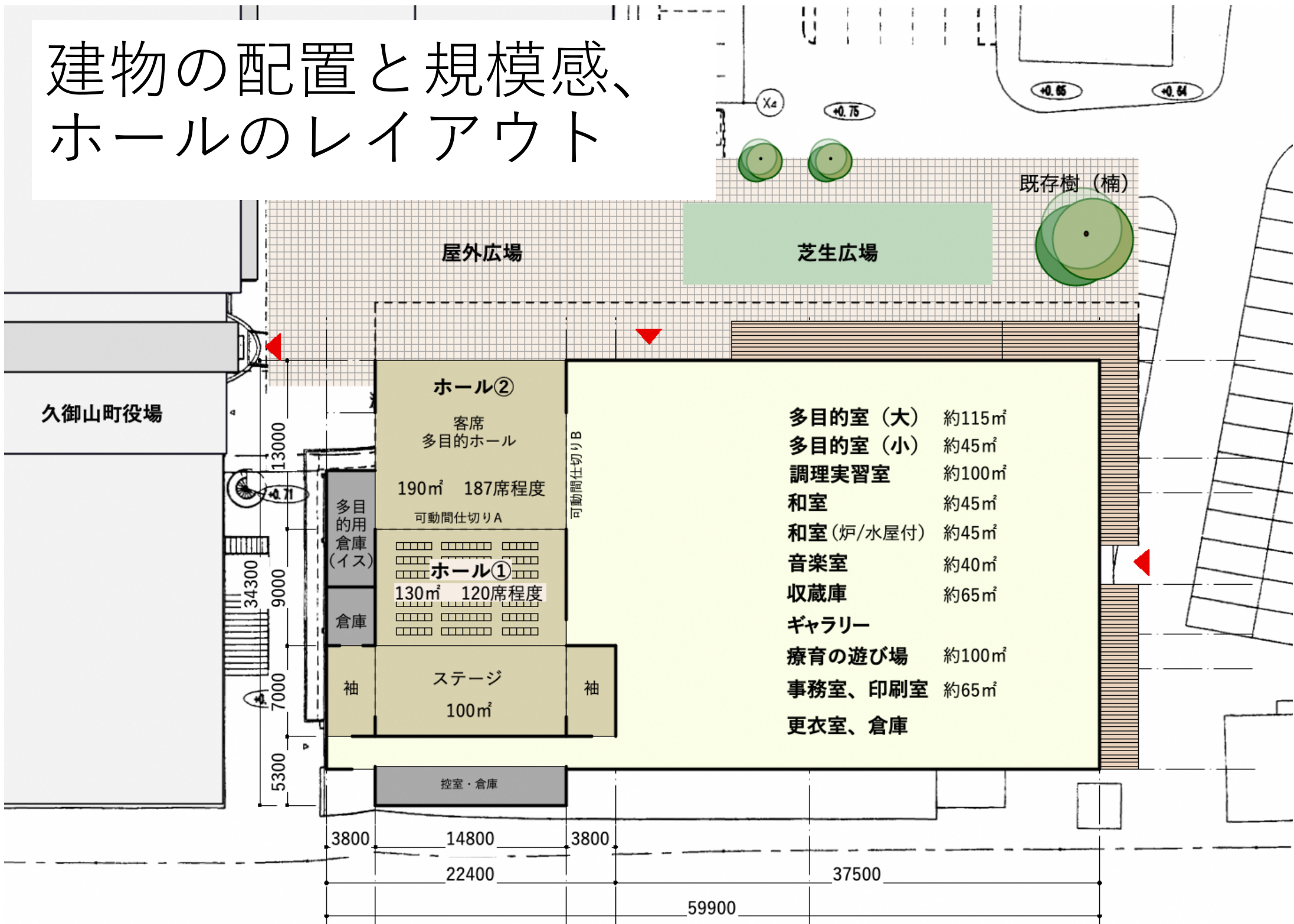
■防災への配慮

- 建設に当たっては、ハザードマップに示された洪水リスクを考慮し、現地盤高よりも最低1.1mの地盤かさ上げを行う（別案：1階部分の床面は、現地盤よりも+1.1m以上とすること）
- 災害時の避難所としての役割を果たす（避難所として活用できる空間、電源確保、物資）。

■その他施設整備における留意事項

- 室温環境（温度、湿度、照明、採光、防音等）を快適に保ち、照明及び冷暖房の経費節約となるよう工夫する。
- 自然エネルギーの有効活用や、低環境負荷材料の使用により環境に優しい施設（グリーン化技術、消費エネルギー削減等）とする。

建物の配置と規模感、 ホールのレイアウト



シーン 1 : 100人規模の小ホール

- 可動間仕切りAを閉じ、舞台、音響、照明が充実した小ホールとして利用。
- 文化サークルや中学校吹奏楽部の定期演奏会や、音楽や演芸に取り組んでいる人たちのステップアップの場を提供する。

シーン 2 : 300人規模のイベントに対応したホール

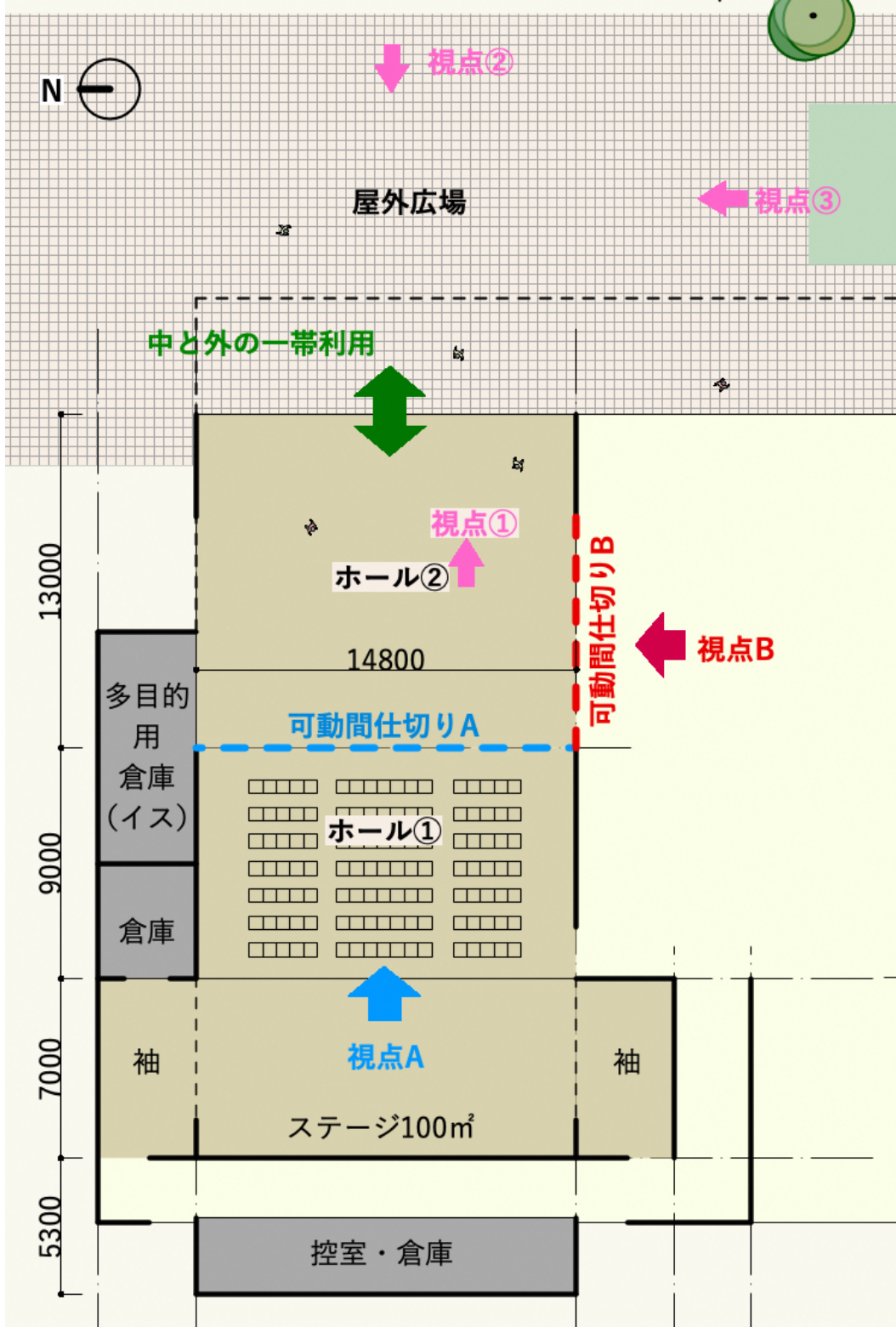
- 可動間仕切り A を開き、可動間仕切り B を閉じ、ホール①②を一体的に閉じた空間として利用。
- さらに、中庭側の仕切りを開放することで屋外空間と連続した利用も可能。

シーン 3 : 2つの使い方の共存

- ホール①では、可動間仕切りAを閉じ、あるグループが舞台を使った練習をしている。
- ホール②では、別のグループが子どもと遊びを楽しんでいる。立ち寄った人が遊びを楽しそうに眺めている。

シーン 4 : 夏休みの親父まつり

- ホール②では、空調の効いた空間の中、子育てママたちのクラフトマルシェが行われている。
- 屋外広場では、焼きそばを焼いたり、金魚すくい、盆踊りブースが作られて、子どもとお父さんたちがワイワイと過ごしている姿をホール②から見る事ができる。



■可動間仕切りAを閉じた場合の120席ホールの事例

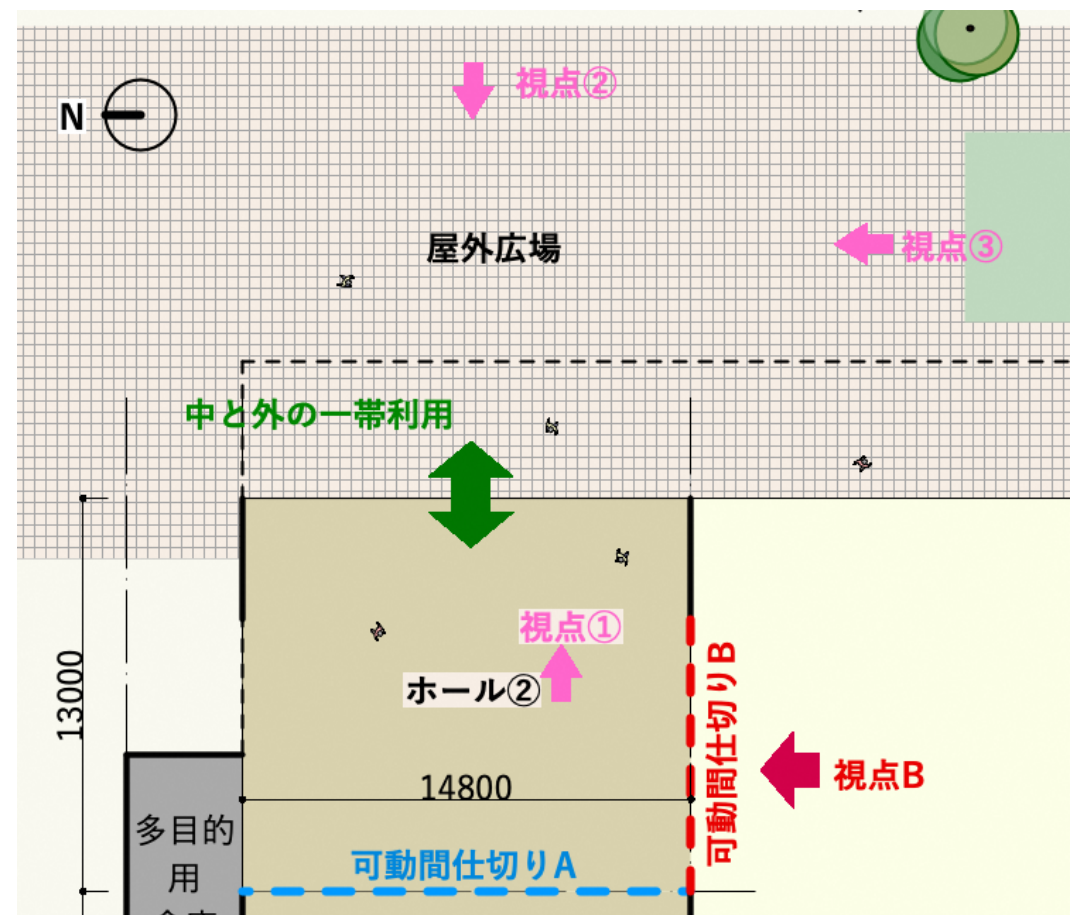


視点Aをからみたイメージ



視点Bをからみたイメージ

ホール②と 外とのつながり



(参考)
ホール②は、
企業等を含め、
多目的な大部屋
として使うこと
もできるように、
採光・通風にも
配慮。